

令和4年3月10日

地域包括支援センター運営協議会

地域ケア推進会議（令和3年度における会議の実績報告）

1 主旨

地域包括ケアシステムを実現する手段の一つとして、開催を推進している地域ケア会議について、市全域における課題把握等を行う地域ケア推進会議を開催するもの。

本日の会議においては、令和3年度における会議の実績を報告するとともに、今後の事業展開の方向性について共有する。

2 地域ケア会議の概要

(1) 目的

地域ケア会議は、課題を抱えた個人の支援内容の検討による課題解決を出発点として、関係者間のネットワークの構築、地域課題の把握等を行うことを目的としている。

また、個別ケースの支援内容の検討を積み重ねることによって、当該地域において共通する課題や要因を見出すことができ、その地域に不足している社会資源の開発、新たな仕組みづくりに向けた政策形成などに繋げることができると想定している。

(2) 5つの機能（それぞれが相互に連携・循環）

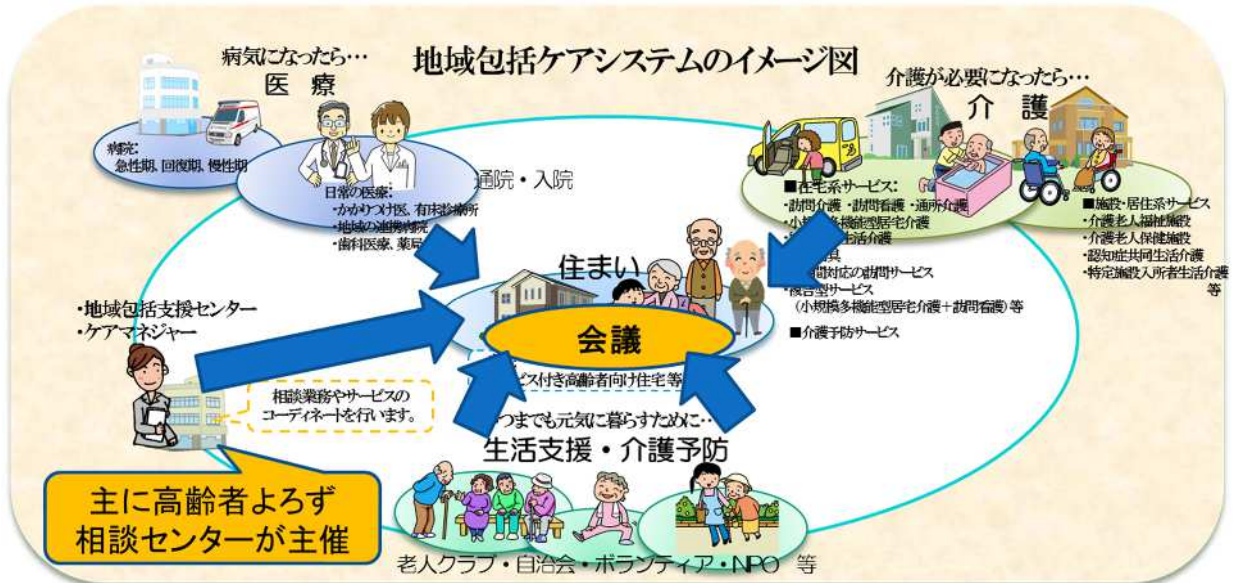
	機能	具体的内容
1	個別課題解決機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援のためのケアマネジメントの質向上 ・支援困難事例等に関する相談、助言
2	地域包括支援ネットワーク構築機能	<ul style="list-style-type: none"> ・住民との情報共有（連携力の向上） ・関係機関の役割の明確化
3	地域課題発見機能	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケースの背後に同様のニーズを発見 ・検討した地域課題の解決策を関係者で共有
4	地域づくり・資源開発機能	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの活動内容、得意分野を活用 ・必要な地域資源を地域で開発
5	政策形成機能	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、県、国への施策の提言

地域ケア会議運営マニュアルP23～25参照（説明欄は抜粋）

(3) 目指すべき姿

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた1つの手法である。地域包括ケアシステムを構成する各分野（医療・介護・住まい・生活支援・介護予防）の連携を通して、「地域で尊厳のあるその人らしい生活の存続」ができるため5つの機能を備えた地域ケア会議を活用する。

【参考：地域包括ケアシステムにおける地域ケア会議のイメージ図(厚生労働省資料加工)】



(4) 平塚市における地域ケア会議の分類

ア 第1層：地域ケア個別会議

個別課題の解決、介護支援専門員による自立支援の方針を決定する。個別事例の解決を蓄積することにより、地域課題を明らかにする。

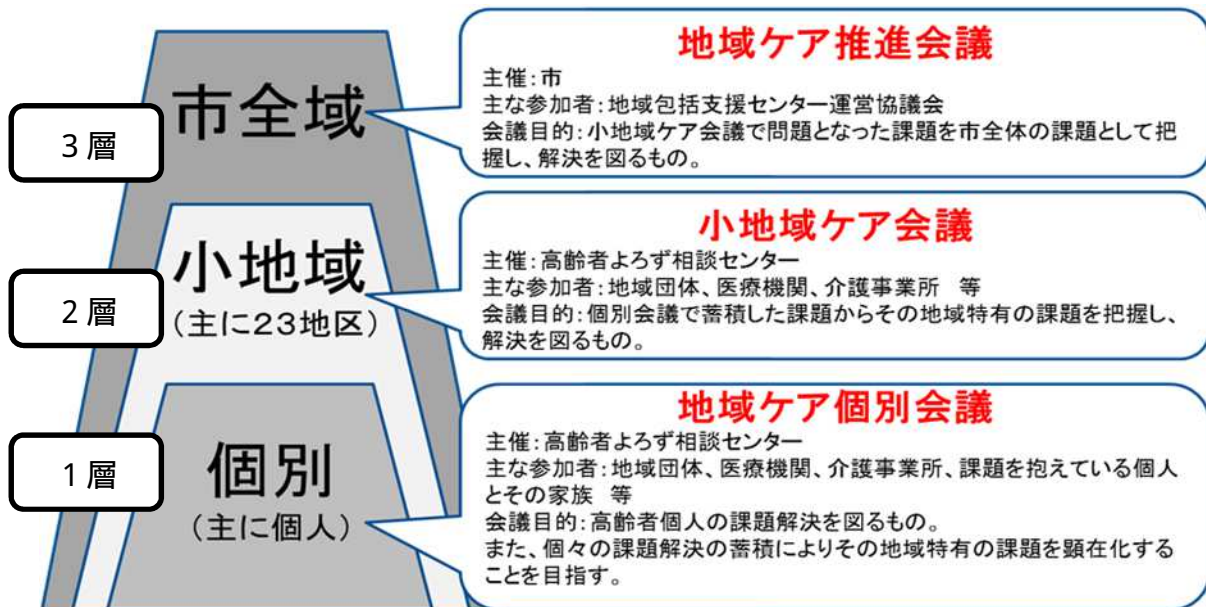
イ 第2層：小地域ケア会議

小地域の課題の把握および対応を検討する。地域ケア個別会議で出された個別課題で小地域に共通する課題を検討する。

ウ 第3層：地域ケア推進会議

市における地域課題の把握および対応を検討する。小地域ケア会議で検討された課題で小地域の圏域内では解決できない市全域に共通する課題を検討する。

【参考：地域ケア会議の構造イメージ図】



3 令和3年度の会議開催実績等

(1) 会議開催数(令和3年4月～令和4年3月)

○地域ケア個別会議：19回

○小地域ケア会議：38回

○地域ケア推進会議：1回

【各包括圏域別開催実績】

包括名	あさひきた	あさひみなみ	おおすみ	倉田会	ごてん	サンレジ	とよだ	ひらつかにし	富士白苑	ふじみ	まつがおか	みなと	ゆりのき
個別	0	0	2	0	0	0	1	5	2	3	2	0	4
小地域	3	0	3	2	0	1	2	14	2	1	2	1	7

ひらつかにしの小地域ケア会議はサロン単位の会議を含む。

まだ開催していない会議の予定件数を含む。

【参考：令和2年度各包括圏域別開催実績】

包括名	あさひきた	あさひみなみ	おおすみ	倉田会	ごてん	サンレジ	とよだ	ひらつかにし	富士白苑	ふじみ	まつがおか	みなと	ゆりのき
個別	0	1	3	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2
小地域	2	3	2	2	0	1	0	1	3	2	1	1	8

ひらつかにしの小地域ケア会議はサロン単位の会議を含む。

○地域ケア個別会議：14回

○小地域ケア会議：26回

○地域ケア推進会議：1回

(2) 会議における議論内容等

高齢者よらず相談センター(以下「包括」という。)からの報告書及びヒアリングにより収集した主な意見をまとめたもの。

ア 地域ケア会議を開催する経緯(開催するきっかけ)

地域ケア個別会議においては、近隣住民、親族、ケアマネジャー、地域団体からの相談、依頼により会議開催に至る例が多い。

小地域ケア会議においては、関係団体と調整のうえ、定期開催をしている例が多い。

小地域ケア会議と協議体を同時に開催している地域もある。

イ 地域ケア会議の開催を通して発見された地域課題

地域の高齢化率の上昇による相談の増加や支える側の高齢化による人材不足が課題として挙がった。

新型コロナウイルス感染症のために外出機会が減少している。

認知症夫婦の場合に周囲の働きかけで地域資源につなげることが難しいと大きな問題が発生するまで見守り体制を整えるといったアプローチぐらいしかできない。

公共交通の不便により高齢者の買い物や通院するための手段がないことや免許返納後の代替手段がない。

独居高齢者が親族疎遠で身元保証人不在の場合、生活困窮などにより孤独死するリスクがある。

ウ 発見された地域課題の解決方法

民生委員、福祉村、自治会、社協、包括がそれぞれの役割や支援対象を理解して、支援の必要な方を適切な相談窓口につなげられる関係性を維持する。

移送のサービスについて、協議体（民生委員、福祉村、自治会、社協）と包括で協議を継続していく。

地域循環型のバスや送迎ボランティアなどできないか。

包括職員や民生委員が日々の訪問や日常で利用しているコンビニや金融機関、スーパーへ同行した際に見守り協力を依頼した。

エ 地域ケア会議を開催して得られたメリット

会議参加者と地区の将来的な見込みを協議することで、圏域内の地区それぞれに課題が異なり、それぞれの支援が必要になってくることを確認できた。

分野ごとにできることを再認識し、地域での移送支援がストップしていたが、再開を試み参加者に問い合わせ、近況連絡したりできる範囲での活動につながった。

地域住民や役員、地域関係者へ個別的に関わりを持ちインフォーマルの社会資源が繋がることで地域力が強化された。

地域の課題共有。地域の特性を把握。

オ 地域ケア会議の開催を通して発見された地域の社会資源

認知症の本人に対して近隣の小売店や近隣住民が思いやりを持ってやさしく接していただいていたこと。

移動販売店舗の利用や宅配のコープなどの配達員のより安否確認。

民生委員、在宅拠点薬局、訪問医、福祉村ボランティアによる見守り体制。

カ 地域ケア会議を開催するうえでの今後の課題

新型コロナウイルス感染症対応のため対面での開催ができない。また、会議室の確保も難しい。

地域ケア会議に出席し話した内容について、守秘義務があるが、会議に参加していない住民に情報をどこまで伝えて共有するか判断が難しい。

個別ケア会議から小地域ケア会議に繋げるといったことがないため、個別ケア会議の活性化が必要。

個別ケア会議では本人同意や親族の同意を得ることが難しいケースがあり、開催まで時間がかかりその間にケア会議ではなく担当者会議やカンファレンスで終わりにすることがある。

キ 地域ケア会議から抽出された行政への提言

8050問題のような子世代の引きこもり、精神疾患など包括的な支援が必要なケースが増えてくるので、こういったニーズに対応する方法、取組について積極的な周知をしてほしい。

外出支援のために、コミュニティバスの運行や移動支援である総合事業サービスDの検討をしてほしい。

ごみの問題は毎年出ることなので、市全体での戸別収集等を検討してほしい。

安否確認の方法や手段についての検討。「ひらつかミルク」の機種変更により使い勝手悪く利用できなくなり返却が増えている。機種変更に際しては利用者の使い方や目的を調査してからの選定をお願いします。

認知症について普及活動の拡充と後見制度の普及が必要。

4 今後の方向性

閉じこもり高齢者への支援について、平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔9期〕）策定に向けて「一般高齢者調査」「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施し高齢者の割合、生活状況、支援ニーズなどを調査いたします。

移動支援の面では総合事業訪問型サービスDについては、他保険者の導入状況やガイドラインで示されている方法が限定されているため、導入を想定していません。現在行われている福祉有償運送や住民主体の地域内移送を支援していきます。

以 上